

英語の音声を楽しむ授業

川越 いつえ



1 ああ、コーラス・リーディング!

毎年6月になると、中学や高校の英語クラスを尋ねる。自分の教える英語教員志望の大学生の教育実習を見て回るためである。汗をかきつつ、学校にたどり着く。教室の後ろに腰を落ち着ける。しばらくすると、我が学生がテープレコーダーなどをもって入ってくる。すっかり先生風の顔をして、“Good morning, everyone! How are you?”と声をかける。授業のはじまりである。まず、教材のテープ音声を聞く。次に今度は教師が英文を読み、生徒が声をそろえて読んでいく。コーラス・リーディングである。「もっと元気な声で読みましょう!」などと教師が激をとばすこともある。何十年前も前、生徒の私もこの合唱の中にいた。昔と何にも変わっていない風景にほっともするが、一方で、これは何なのかと考え込んでしまう。

「テープを聞いて、コーラス・リーディングをする。これが発音指導になるのでしょうか。」そんな疑問を高校で口にしたことがある。発音指導としては意味がないのではないか、という私の口調に、高校の先生方が口ごもりながら、「クラスに一体感がでますし、元気を出させるのにいいんです」と言われたのを思い出す。コーラス・リーディングで発音がよくならないのは、なんでいつまでも続いているのかなあ、などと思いつつ、我が授業にもどる。教科書をあけ、次に言ったことは「では、みんなで一緒に声を出して読みましょう。」ああ、私も結局、何となくコーラ

ス・リーディングなのだ!

2 いつものメニューに、スパイスを。

生徒たちをとりまく外の世界は生の英語の音声があふれているが、教室の中では、相変わらず、発音指導に時間のかけられない状況が続いている。単にテープを聞くだけで聞き取りがよくなることはないし、教師についてコーラス・リーディングすると発音がよくなるということもありえない。年中行事になっているような授業のルーティーンに、ちょっとしたメリハリをつけることはできないだろうか。各章の新出単語を教師の後に続いて発音するというのも、よく見る光景であるが、これもひと工夫してみたなら、もっと立派な発音指導になりそうだ。

①テープを聞く：パラグラフをまとめて聞く場合には、聞きながら文のメロディーをチェックさせるとよい。(a)文末が上がっているか(上昇調)、下がっているか(下降調)を矢印で書き込む。(b)強く読まれている単語(強勢拍)に下線を引く。(c)一番強い単語(音調核)に二重下線を引く。(d)区切りに斜め線を引く。(e)What is it?のように、母音で始まる語では、連結のしるしをつける。こうした作業は、負担にならないよう、チェック箇所は1回に1項目。1, 2文を指定してチェックさせてもよい。毎回ほんの1分ほどでよいと思う。そのうちに、音調には下降上昇調もあるし、文中では平板調もあることも聞き分けるようになる。

上述の作業から入って、少しずつ、英語の文メ

ロディーの解説をする。英語のリズムについて、手をたたいて強勢リズム（強勢拍から強勢拍まで）が、ほぼ同じ時間間隔で発音されて作られるリズム）を実感させるのもよいし、下降調は断定口調だから、命令文の“Sit down, please.”も文尾を上昇調で言うことやさしげになるといったデモンストレーションもよいかもしれない。Wh 疑問文は下降調、とだけ教えるよりも、疑問をしっかりと相手に投げかけるのだから、下降調なので、自信なげに言う場合は Wh 疑問文も上昇調になる、といったところまで踏み込んでも、結構、生徒はついてくる。

②テキストのコーラス・リーディング：元気を出すためのテキストの音読であれば、全員を立たせておいて、読み終わった者から着席させるのも1つのアイデアだろう。早く読むというのは、英語上達の1つの行程だから、スピード競争もよい。指導項目をたてて、コーラス・リーディングするのもよい。たとえば、今週は文のリズムに注意して読む、次は文末音調の重視週間。そんなメリハリもルーティーンの雰囲気を変えてくれる。教師が読んだあと、コーラスでなく、1人を指名するのもよい。その際、ちょっとした発音上のコメントをすると、クラス全員が発音に敏感になる。1人を指名する場合も、たて列を全員立たせておいて、後ろから1文ずつ読ませ、読んだら座るといった方法もある。

③新出単語：教師の“Repeat after me!”の掛け声で、生徒がコーラスで発音する、これでは生徒は何に注意すべきか分からない。アクセントの位置、単音の発音、長い単語では弱音節の弱化、そして、何よりも母音を入れて読むくせはご法度だ。drám が dóramu では英語には聞こえない。

3 耳に残ることばを求めて

今わたしの授業では、映画の名台詞を文メロディーや区切りに注意して練習し、発表させている。仲間の学生の見事な読みに、誰からともなく

オオッと感動がおきる。誰もがお互いの上達にびっくりしている。彼らの中に英語の表現がメロディーとともに入っていく。「先生、あの台詞、迫力ありますねえ。」こんな感想を学生が伝えてくる。英語が生きて身体に入ったなと思う。ことばの意味とともに、音のひびきが耳に残るような英語教育を作りたいといつも思う。

テレビでもラジオでも心ときめく英語の発音がいくらでもある。ベッカム選手のちょっとした一言でもよいし、アメリカ大統領の演説の一文でもよい。ディスクジョッキーの調子のいい英語だっていい。旬の話題をテレビやラジオから切り取って授業にもちこむ。ほんの数秒の音声が英語の授業全体を生ものの味にしてくれる。

大事なことは英文の意味解釈で終わらずに、英語の音を生徒とともに味わうことだと思う。「このtimeの発音を聞いてみようよ、タAIMとアが長いじゃないか、これが英語らしく発音するポイントだよ。」といった具合である。以前ビールのコマーシャルで、「×××ドラアイ」とやっていた頃、授業でずいぶんとあの誇張したrを真似してしまった！教師が英語と日本語の音の違いを楽しんでいれば、生徒はきっと乗ってくる。発音を盛んに教えているクラスで、ポール・マッカートニーの歌の中の単語が聞き取れたとって報告にきた学生がいる。彼の中で、授業の英語が始めて外の世界とつながったのだ。

(かわごえ いつえ・京都産業大学教授)

●大修館版〈音声〉教材のご案内

教科書準拠生徒用CD

- ・ Captain English Course I
- ・ Captain English Course II
- ・ Genius English Course I
- ・ Genius English Course II
- ・ Departure Oral Communication I
- ・ Genius English Readings (税込定価各980円)

教科書完全準拠のCDが求めやすい定価で登場！
